

平成18年7月18日  
経済産業省

## JHFCセントレア水素ステーションの開所について ～燃料電池バスによる本格的な営業運転を開始～

水素供給設備を設置し、燃料電池自動車の実証研究を行う「水素・燃料電池実証プロジェクト(JHFC:Japan Hydrogen & Fuel Cell Demonstration Project)」では、中部地域において、JHFCセントレア水素ステーションを設置し、7月21日(金)に開所します。これにより、燃料電池バスの営業運行による実証走行試験を「知多半田～中部国際空港」間、旅客ターミナルビルと航空機間のランプバス及び空港島内を循環する貨物地区循環線にて行います。

1. 「水素・燃料電池実証プロジェクト(JHFC:Japan Hydrogen & Fuel Cell Demonstration Project)」では、愛・地球博で会場間輸送に用いられた燃料電池バス及び水素ステーションの実証試験を、中部国際空港周辺に移して燃料電池バスの本格的な営業運転を7月から実施することになりました。
2. 当水素ステーションはJHFC事業の取組として設置され、セントレア及び周辺において営業運転される燃料電池バスへの水素充填を行うものであり、7月21日(金)に開所式が行われます。
3. 燃料電池バスの実証走行試験は、トヨタ自動車株式会社と日野自動車株式会社が燃料電池ハイブリッドバス「FCHV-BUS」を知多乗合株式会社に貸与し、同社の営業路線である常滑線(「知多半田～中部国際空港」間の全区間)における営業運行等を行うものです。また、中部国際空港では、旅客ターミナルビルと航空機間のランプバス及び空港島内を循環する貨物地区循環線にて営業運行を行います。

(本発表資料のお問い合わせ先)

資源エネルギー庁 燃料電池推進室

担当者：安藤、月舘、後藤

電話：03-3501-7807(直通)

(内線 4451～4452)

(参考)

1. 燃料電池ハイブリッドバス(FCHV - BUS)  
・トヨタと日野が共同で開発した燃料電池ハイブリッドバス。

今回使用する燃料電池ハイブリッドバスは、「愛・地球博」の会場間輸送で使用したバスの外観のラッピングを一新し、運行に必要な装備を追加。

燃料電池ハイブリッドバス  
(ランプバス仕様)



(写真提供：トヨタ自動車株式会社)

2. JHFCセントレア水素ステーション  
・「水素・燃料電池実証プロジェクト」として、水素供給設備の安全性などのデータ取得などを目的に実証試験を実施。事業主体は(財)エンジニアリング振興協会。

水素ステーション



(写真提供：エンジニアリング振興協会)

3. 走行試験  
・燃料電池バスによる本格的な営業運行を実施。  
・国土交通省の、「燃料電池自動車実用化促進プロジェクト」との連携事業。

#### 【燃料電池バスの運行計画】

##### 1. 路線バス(知多乗合営業運行)

常滑線

- ・運行区間 知多半田～中部国際空港
- ・使用台数 1台
- ・運行ダイヤ 1往復/日 料金は知多半田～空港間で750円

貨物地区循環線(と同じ車両を使用)

- ・運行区間 旅客ターミナルビル～総合物流中央～旅客ターミナルビル
- ・使用台数 1台
- ・運行ダイヤ 平日:7往復/日、土日・休日:5往復/日

##### 2. ランプバス(中部スカイサポート株式会社営業運行)

- ・運行区間 中部国際空港誘導路内(旅客ターミナルビル～航空機)
- ・使用台数 2台
- ・運行時間 7:00～22:00